

国官総第807号  
平成20年3月31日

高等海難審判庁長官 殿

国土交通大臣 冬柴 鐵三

### 平成20年度に海難審判庁が達成すべき目標について

中央省庁等改革基本法（平成10年法律第103号）第16条第6項第2号の規定に基づき、平成20年度において海難審判庁が達成すべき目標を次のとおり定めたので、通知する。

#### ・海難審判庁が達成すべき目標の設定に当たって

中央省庁等改革基本法においては、各府省が行う評価として「政策評価」及び「実施庁の実績評価」が規定されているところである。海難審判庁は、主に政策の実施を担う庁と位置づけられているものの、政策の企画及び立案を行う行政機関でもあり、「政策評価」、「実施庁の実績評価」ともにその対象となる機関である。

本件は、業務の実施に係る目標を設定するものであり、目標の達成状況については、原則毎年度の評価を行い、速やかに公表されるものである。

なお、第169回国会に提出中の「国土交通省設置法等の一部を改正する法律案」が成立した場合、海難審判庁は平成20年10月から組織変更され、非実施庁となることが予定されている。そのため、同法案が成立した場合、年度終了を待たずに平成20年4月から9月までの半年分の海難審判庁の実績を評価し、公表することとする。

#### ・海難審判庁が達成すべき目標

##### 1. 迅速な海難の調査及び審判について

海難の防止に寄与するため、迅速な海難の調査及び審判に努め、早期に原因究明を行う。

##### [具体的な目標]

- ・海難の認知から裁決までの平均期間を12ヶ月以内とする。
- ・社会的影響の大きい海難については、特に集中的な調査・審判に努め、海難の認知から裁決までの平均期間を10ヶ月以内とする。

## 2 . 海難に関する情報の利用促進等について

海難の原因、海難実態の分析等に関する情報を提供する機能の向上を図るとともに、海難審判及び海難防止に関する知識の幅広い普及を図る。

### [ 具体的な目標 ]

- ・ 海難の原因や教訓の海難防止への有効活用を促進するため、海難分析集やニュースレターなど各種形態による刊行物を 10 回以上発行し、海事関係者等に幅広く提供する。
- ・ 海難の調査・審判を通じて得られた知識・経験を踏まえ、関係行政機関に対し、海難防止に関する施策について積極的な提言を行う。